医者の養生

胸が締め付けられる痛みに注意

食生活の欧米化で できやすい血の固まり

豊橋ハートセンター研究所長
加藤 修さん

心臓や血管など循環器の専門病院で、二十四時間救命救急体制の豊橋ハートセンター（豊橋市大山町五分取二一ノ一、電話0532・37・3377）を訪ね た。ここでは、心臓カテーテル検査は年間約三千例、風船カテーテルなどによる治療は年間約千例、動脈バイパス手術などの手術は年間約三百例を手掛けている。今日は研究所長の加藤修さんに心臓の病気について話を聞いた。

心臓病と脳卒中

近年、心臓病から脳卒中を起こすというケースが増えている。従来、脳卒中と言えば、脳の血管の破裂や脳出血、血管が詰まってしまう脳梗塞が主だった。脳出血が血圧の管理が可能になって減ってきた一方、脳梗塞は脳出血よりも増えている。脳梗塞には血管そのものに原因がある場合と、脳の外の血管である頸動脈に血の固まりができる場合とがあり、頸動脈の動脈硬化による脳梗塞は、厳密には脳塞栓と言う。

これらが従来の脳卒中だったが、最近、注目を集めているのは、心臓から来る血の固まりによって起こる脳塞栓だ。ただ、心房細動という不整脈で心臓の中に血の固まりができ、これが脳へ行ってしまうということは以前から診しいことではなかった。それ以外に脳卒中の原因があるということが、最近、欧米を中心に言われるようになってきたのだ。

その原因とは、心房の中にある心房中隔の穴だ。心臓は右心房、左心房、右心室、左心室に分かれている。この右と左を仕切っている壁が心房中隔。人間は母親の胎内にいる時にはこの心房中隔がない時期があり、やがてここに壁ができて生まれてくる。だが、壁ができずに穴が開いたままで生まれてくる人がいる。常に穴が開いているのであれば、病気として認定されるが、中には、普段は穴に蓋がついていて、日常生活には支障がなく、何かの拍子で穴が開いてしまうという人もいる。こういう状態を卵円孔開存（らんえんこうかいぞん）という。

血の固まりが脳へ

この卵円孔開存の人は比較的多く、それほど診しい障のない卵円孔開存でも、積極的に閉じたほうがいいという意見も出てきているほどだ。

もちろん、心臓にしろ、脳にしろ、さらに足先にしろ、完全な健康体であれば、血の固まりは滅多にできない。やはり食生活の欧米化によって、日本人も血の固まりができやすくなってしまったようだ。心臓は筋肉と違って鍛えて強くすることはできないが、リスクファクターであるタバコ、ストレスを避けることで動脈硬化の予防にはなる。もちろん糖尿病の人は特に気をつけるべきだ。

また、心臓の病気と言えば、心筋梗塞、狭心症、不整脈、心不全などの虚血性心疾患が最近特に増えている。長く歩いた時、階段を上った時、自転車に乗った時、坂道を上った時、気持ちが高ぶった時など心臓に負担がかかった時に、胸全体が締め付けられるように圧迫され、場合によっては冷や汗が出るような状態が起こり、安静にして五～十分で収まったら要注意だ。虚血性心疾患の可能性があるので、専門医に相談してほしい。

「胸にいつもと違う痛みを感じたら専門医に相談を」と加藤さん

内科的治療を行う循環器科と手術などの外科的治療を行う心臓血管外科を設置した豊橋ハートセンター